

天文台発 ぽらりす

≪2026年4月発行/毎月初めに天文台職員が情報発信します≫



新しい年度が始まりました。札幌市天文台の「2026年度夜間公開スケジュール」も決定したのでチラシを配布しています(右図)。例年の夜間公開では『中秋の名月』が最も参加者が多かったのですが、昨年度は『スーパームーン』(2025年11月5日実施)が断トツの1位でした。今年のスーパームーンは12月24日で、偶然クリスマスイブと重なっていますが、参加者数はどうなるでしょうか？そのスーパームーンに関して、とても大切なお知らせがあります。それは、

実は今年度は『スーパームーン』が2回あるのです！

『スーパームーン』とは、ある外国人占星術師が1970年代に言い始めた「地球に近い満月や新月」だそうです。月が地球に近づいたり、遠ざかったりするのは、地球の周りを公転する月の軌道が楕(だ)円形なのが原因です。しかし、距離などの定義が諸説あって混乱を招いています。(定義が異なると、1年に複数回スーパームーンが起きてしまう場合があります。) そもそも天文学の用語ではないので、日本の国立天文台では『1年のうちで最も近い満月』と呼び、「スーパームーン」という語を使用していませんが、一般には「スーパームーン」の語は浸透しているようです。

さて、配布中のチラシでは国立天文台の表記にならない、裏面(2026年天文情報)では12月24日を「今年最大の満月」とし、それを表側では『スーパームーン』と表記しているので、1年に必ず1回あることとなります。ところが、その1か月後、2027年1月22日は「2027年で最も近い満月」なので、「年度」で区切ると『2026年度はスーパームーンが2回ある』※というめずらしい事が起きるのです。(F)

- ※両者を比べると前者の方がわずかの差で「より近い満月」です。
- ※2027年1月の満月は天文台での夜間公開はありませんが、科学館前広場で観望会を実施するかもしれませんので、時期が近づいたら札幌市青少年科学館のホームページをチェックするとよいでしょう。
- ※今度は「2027年度はスーパームーンがなくなるのでは？」という心配が生じるかもしれません。でも、安心してください。2027年度は2028年2月11日の満月が『2028年で最も近い満月』なのでスーパームーンはなくなりません。



【2025年11月5日の満月/札幌市天文台】

☆4月の夜間公開(予約は不要です。公開時間内にお越しください。)

3日(金)~5日(日) 20:00~22:00 木星・冬から春の星座

24日(金)~26日(日) 20:00~22:00 月・木星・春の星座

休台日は6日(月)、13日(月)、20日(月)、27日(月)、30日(木)です。